

実践報告

札幌市立月寒小学校

(1) 研究内容

研究課題：「サップロピリカコタン」を活用した学習の研究

○北海道の先住民族のアイヌの方々が築いてきた歴史や文化を学び、正しい知識を得て、理解を深める。また、衣食住や遊びから、自然を生かした知恵について考えることができるようにする。さらに、アイヌの方々の社会や文化を尊重する態度を養う。

○文化の多様性を理解し、互いの文化を尊重できる力を育てる。かけがえのない人間としての尊厳を認め合い、一人一人が自他の生命を尊びあらゆる偏見や差別をなくし、心豊かにたくましく生きる力を育てる。

(2) 実践の内容

【実践①】「サップロピリカコタン」の施設見学と体験プログラムの利用」について

○ ねらい

サップロピリカコタンの展示物や施設を見学し、アイヌ民族の文化や歴史についての理解を図る。

- ・民具の実物に触れたり、歌や踊りを体験したりするなどしてアイヌ民族の文化、歴史などに親しむ。
- ・アイヌの方々から直接学ぶ体験的な学習(交流)を通して、関心を高め、アイヌ民族の文化や歴史を理解し、多様性と人権を尊重する態度を育てる。

○ 学習内容

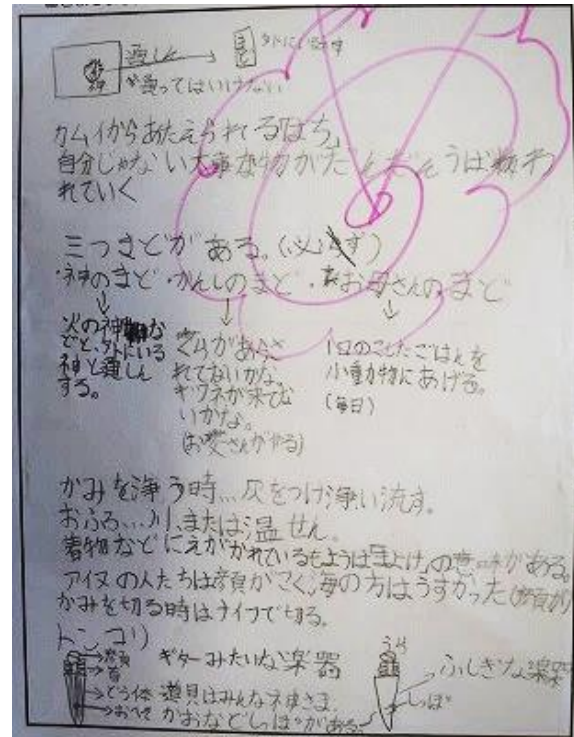
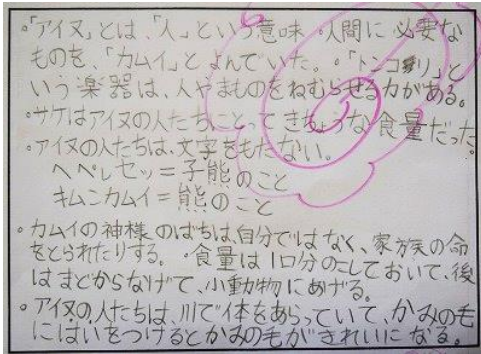
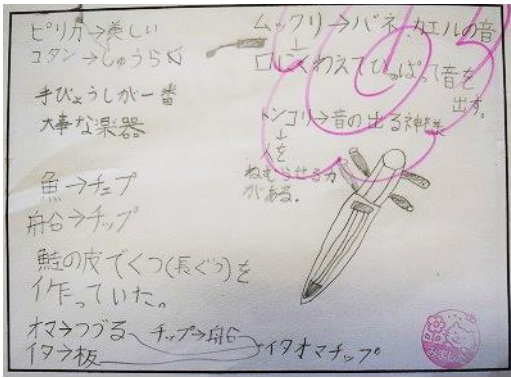
- ・北海道の先住民族のアイヌの方々が築いてきた文化や歴史を学ぶ。
(屋内展示室・屋外施設見学・質疑応答等)
- ・アイヌの方々の衣食住や遊びについて調べたことから、自然を生かす知恵について考えていく。(チセ見学・カリプ体験・縄跳び等)



- ・アイヌの方々が語り伝えてきた話やお祭りを学ぶ中で、自然と共に生活しているアイヌの方々の思いや願いを学ぶ。

(歌舞・演奏鑑賞・舞踊体験)





(3) 研究のまとめ

① 成果

- アイヌ民族の方から直接お話を聞くことで、あらゆるものを神「カムイ」として大切にアイヌ民族の考え方を学ぶことができた。また、ムックリやトンコリの楽器の演奏を聴いたり、舞踊体験をしたりすることによって、アイヌ文化に親しむことができた。
- 遊び（カリプ・縄跳び）の体験を通して、狩りの仕方について、子どものころから遊びを通じて習得していったことに気付くことで、アイヌの文化の奥深さについて理解することができた。
- 屋外施設見学では、アイヌ民族がどのような暮らしをしていたのか（住）、また、屋内施設（展示物）見学では、どんな衣服を着ていたか（衣）、どんなものを食べていたか（食）、アイヌ民族の生活の歴史に触れることができた。

② 課題

- アイヌ民族の歴史や文化・生活といった面に重点をかけた指導計画であったため、人権教育に焦点化する指導内容と方法を工夫していく必要がある。

③ 提言「人権教育のすすめ」

アイヌ民族に対して、北海道の先住民族であるが身近ではないと存在と感じていた子どもたちが、体験的な学習活動を通して、北海道の礎を築いてきたアイヌ民族への感謝の気持ちをもったり、自然や他者を尊重する考え方や生き方の素晴らしさを感じたりすることができた。

人との出会いを大切にすることや他民族や異文化の存在を理解することが相手を尊重する第一歩であると子どもが考え、「アイヌの人たちの人権が守られる社会は、自分たちも含めみんなが尊重される社会となる」という理解が進むよう他の教科・領域でも取り組んでいきたい。